

教育学部の一つの役割として、卒業生（主に教師）のアフターケアということも大事な問題であると思う。本学部には大学院がないので、直接現場の教師と接する機会は少ないが、たまに県の教育指導センターなどに非常勤として呼ばれて行くと、天文の再教育の必要性を痛感することがある。それに、教育養成のための教育学部は非常に地域性の高い学部なので、（一般論としても）たまには望遠鏡施設などを公開して、生涯教育の一環（当節流行のカルチャーセンターではないが）としての役目を果たすことを考えていく必要もあるかもしれない。この辺は、今のところ、教官の一時的な負担にかかっているので難しい問題である。

さて、最後に暗い話になって恐縮だが、教育学部の天文教育には明るい未来があるだろうか。というのは、何処の教育系学部でも抱えている課題として、今後いかに縮小されずに生き残っていくかという問題に迫られているからである。これは、現在児童数が減少傾向にあるために教師採用者数が減り、それに伴って教育学部の学生数も減らされること必定だからである。教育学部としては規模が小さくなるのは避けられそうもなく、天文関係の教官数が減る、或いはうかうかしていると天文分野が無くなってしまふところも出てこないとも限らない。教育学部での天文教育は不十分かもしれないが、日本の大学においては天文分野と呼べる教官のいる数少ない学部の一つなのである。この辺の問題は現教育学部の天文教官の今後の努力と、天文社会の関心が大きく影響してくるであろう。読者の関心と支援を大いに期待したいところである。

〔付録〕 滋賀大学教育学部地学研究室の最近における天文関係の卒業論文目録

- S 47 ◦ 1970 年メキシコ日食における内部コロナの物理構造
- 49 ◦ サージ型プロミネンスの形態学的研究
- 50 ◦ 太陽黒点暗部で観測された微細構造の時間変化
◦ 黒点の運動に関する太陽活動領域の形態学的研究
- 51 ◦ 1973 年アフリカ日食において観測された明るいコロナ輝線の解析
- 52 ◦ 活動型プロミネンスのスペクトル解析
◦ コロナ活動領域の単色写真解析
- 53 ◦ 静止型プロミネンス及び転移領域の分光学的研究
◦ サージ型プロミネンスの運動学的研究
◦ 太陽活動領域の形態学的研究

- コロナ・プロミネンス及び転移領域の分光学的研究

- S 54 ◦ コロナ輝線スペクトルの線輪郭解析
- 太陽プロミネンスの運動学的研究
- 黒点内輝度分布の中心 - 周縁変化について
- 黒点の固有運動からみた太陽活動領域の形態学的研究
- 55 ◦ 太陽プロミネンスの運動学的研究
- 太陽黒点の周辺減光について
- 最近 20 年間における日本天文学界の動向
- 56 ◦ 1980 年ケニア日食における太陽コロナ単色像の解析
- 活動型プロミネンスの運動学的研究
- 57 ◦ サバチェ効果を利用したプロミネンス単色像の解析
- 太陽における活動的諸現象の周期性と相互関係
- 太陽フレアと他の活動現象の相関——主として場所的相関について——
- 58 ◦ 太陽分光観測装置の制御に関する研究
- 太陽プロミネンスにおける振動・波動現象の研究
- 太陽プロミネンスにおける速度場の研究
- 59 ◦ 太陽黒点の周縁減光について
- 最近 10 年間における米国天文学界の動向
- 活動型太陽プロミネンスの速度場の時間変化
- 太陽プロミネンスにおける速度場の研究
- 太陽コロナにおける振動・波動現象の検出
- 60 ◦ 光球振動とスピキュールの形成
- 太陽プロミネンスにおける振動・波動現象の検出

編集室だより

「隕石」と「流星」の間違い（79 巻 8 月）をしたときは、村山定男、富田弘一郎、佐藤明達、……の皆様から電話をいただき、9 月号 249 頁に訂正を出しました。こういう時だけでなく、もっと読者と編集室の対話がほしいと思います。とにかく、その時は、「月報」を愛して下さる読者の眼を感じて、胸の熱くなるうれしさを覚ええました。

今後の年会は次のような予定です。

- | | |
|---|--------------|
| 昭和 62 (1987) 年 10 月 19 日 (月) ~ 21 日 (水) | 北大 |
| 昭和 63 (1988) 年 5 月 | (未定) 大阪 (予定) |
| 昭和 63 (1988) 年 10 月 | (未定) 金沢 (予定) |